

◆ 理学部

学 科	選抜方法 の区分	出題 教科等	出題科目（出題範囲）	備考
数 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物 から1 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
	後期日程	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B	
物 理 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 物理基礎・物理 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
	後期日程	個別学力検査は課さない		
化 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 化学基礎・化学と、 物理基礎・物理、生物基礎・生物 から1 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
	後期日程	論述試験		
生 物 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 生物基礎・生物と、 物理基礎・物理、化学基礎・化学 から1 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
	後期日程	論述試験 面接（口述試験を含む）		
情 報 学 科	前期日程	数学 数学・理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 数学Ⅲ、物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物 から2 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
	後期日程	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B	

◆ 生活科学部

学 科	選抜方法 の区分	出題 教科等	出題科目（出題範囲）	備考
食 物 栄 養 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物 から1 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
	後期日程	面接		
人 間 ・ 環 境 学 科	前期日程	数学 理科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物 から1 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
	後期日程	面接		
※ 人 間 生 活 学 科	前期日程 のみ	国語 数学 外国語	国語総合・現代文B・古典B 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B } から1 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	

※人間生活学科は、後期日程の募集は行わない。

〔注〕（3学部共通）

- 1 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Aは、全範囲から出題する。数学Bについては、「数列」、「ベクトル」を出題範囲とする。
- 2 「物理基礎・物理」については、物理基礎、物理の全範囲から出題、「化学基礎・化学」については、化学基礎、化学の全範囲から出題、「生物基礎・生物」については、生物基礎、生物の全範囲から出題する。

(3) 試験教科・科目別配点 (全学部共通事項)

大学入試センター試験の外国語「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を4:1の比率を変えず各学科等の配点に圧縮して換算する。

(但し、リスニングテスト免除者を除く。)

【前期日程】 【文教育学部】

大学入試センター試験にかかる詳細は11~13ページを参照。

試験区分 教科・科目等	大学入試センター試験					本学の試験					合計
	国語	地歴 公民	数学	理科	外国語	*2 国語	*2 数学	外国語	実 技	計	
人文学科			400	*1		(200)	(200)	200	—	400	800
言語文化学科			400	*1		200	—	200	—	400	800
人間社会学科			400	*1		400 *3			—	400	800
芸術・表現 行動学科	舞踊		400	*1		(100)	(100)	100	200	400	800
	音楽		400	*1		(200)	(200)	200	*4	400	800

[注]

- *1 大学入試センター試験は、国語200点、地理歴史・公民200点(地理歴史から1、公民から1の計2科目又は、地理歴史から2科目のいずれかの組み合わせ)、数学200点(2科目の合計点)、理科100点、外国語200点の合計点900点に9分の4を掛けて400点満点に換算する。
- *2 人文学科、芸術・表現行動学科は、本学の試験「国語、数学」から1教科選択。
- *3 人間社会学科の本学の試験の配点400点は、国語200点、数学200点、外国語の200点の合計点の3分の2とする。
- *4 芸術・表現行動学科「音楽表現コース」の実技は、実技検査全科目(各科目100点満点)の平均点が60点未満の場合、不合格となる。

【前期日程】 【理学部】

大学入試センター試験にかかる詳細は11~13ページを参照。

試験区分 教科・科目等	大学入試センター試験						本学の試験						合計		
	国語	*1 地歴 公民	*2 数学	*2 理科	外国語	計	数学 *3・*4			理科 *4				外国語	計
数学 共通							数学 専門	数学	物理	化学	生物				
数学科	50	25	50	50	50	225	100	200	—	(100)	(100)	(100)	100	500	725
物理学科	25	25	50	50	100	250	100	—	100	200	—	—	50	450	700
化学科	100	50	100	100	100	450	100	—	—	(100)	200	(100)	100	500	950
生物学科	50	50	100	100	100	400	100	—	—	(100)	(100)	200	100	500	900
情報科学科	100	50	100	50	100	400	200	—	(100)	(100)	(100)	(100)	100	500	900

[注]

- *1 大学入試センター試験「地理歴史・公民」から1科目選択。
- *2 大学入試センター試験「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
- *3 数学及び理科の出題範囲については前頁の「個別学力検査教科・科目等」の[注]欄を参照のこと。
 数学(数学共通) : 数学科、物理学科、〔数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B〕
 数学(数学共通) : 化学科、生物学科、情報科学科〔数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B〕
 数学(数学専門) : 〔数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B〕
 数学(数学) : 〔数学Ⅲ〕
- *4 数学科、化学科、生物学科は本学の試験「理科」のうち配点に()をつけたものから1科目選択、情報科学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に()をつけたものから2科目選択

【前期日程】 【生活科学部】

大学入試センター試験にかかる詳細は11~13ページを参照。

試験区分 教科・科目等	大学入試センター試験						本学の試験					合計
	国語	*1 地歴 公民	*2 数学	*3 理科	外国語	計	*4 国語	*4 数学	理 科	外国語	計	
食物栄養学科	100	50	100	150	100	500	—	200	100	200	500	1000
人間・環境科学科	100	50	100	150	100	500	—	200	100	200	500	1000
人間生活学科	100	150	100	50	100	500	(250)	(250)	—	250	500	1000

[注]

- *1 食物栄養学科、人間・環境科学科は大学入試センター試験「地理歴史・公民」から1科目選択。
人間生活学科「地理歴史・公民」は、地理歴史から1、公民から1の計2科目、又は地理歴史から2科目選択。
- *2 大学入試センター試験「数学」は2科目の合計点とする。
- *3 食物栄養学科、人間・環境科学科の大学入試センター試験「理科」は2科目の合計点とする。
- *4 人間生活学科は本学の試験「国語、数学」から1教科選択。

【後期日程】 【文教育学部】

大学入試センター試験にかかる詳細は 11～13 ページを参照。

試験区分 教科・科目等	大学入試センター試験						本学の試験			合計
	国語	地歴公民	*5 数学	理科	外国語	計	小論文	実技	計	
学科等										
人文学科 * 1	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	150	100	—	100	250
人間社会科学科 * 2	100	100	100	50	100	450	100	—	100	550
芸術・表現行動学科*3	100	—	100	—	200	400	—	*4	—	400

〔注〕

*1 人文学科は、大学入試センター試験「国語」、「地理歴史・公民、理科から 1」、「数学」、「外国語」から 3 教科・科目を選択。

人文学科の本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典（電子式を除く）の持ち込みを認める。

*2 人間社会科学科の後期日程の大学入試センター試験のうち、「地理歴史・公民、理科」の各教科の選択科目については、「地理歴史から 2 科目と理科」、又は「地理歴史から 1 科目と公民の計 2 科目と理科」とする。

なお、理科の選択科目は、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の 4 科目の中から 2 科目、又は物理、化学、生物、地学の 4 科目の中から 1 科目のいずれかとする。

*3 芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」は、前期のみで後期の募集は行わない。

*4 芸術・表現行動学科「音楽表現コース」の実技は、実技検査全科目（各科目 100 点満点）の平均点が 60 点未満の場合、不合格となる。

*5 大学入試センター試験「数学」は 2 科目の合計点とする。

【後期日程】 【理学部】

大学入試センター試験にかかる詳細は 11～13 ページを参照。

試験区分 教科・科目等	大学入試センター試験						本学の試験			合計
	国語	*1 地歴 公民	*2 数学	*2 理科	外国語	計	数学	論述 試験	面接 (口述試験 を含む)	
数 学 科	*3	*3	*3	*3	100	100	300	—	—	400
物 理 学 科	50	50	200	200	100	600	—	—	—	600
化 学 科	100	50	100	200	100	550	—	100	—	650
生 物 学 科	25	25	50	100	50	250	—	200	100	550
情 報 学 科	100	50	200	200	250	800	300	—	—	1100

〔注〕

*1 大学入試センター試験「地理歴史・公民」から 1 科目選択。

*2 大学入試センター試験「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の 2 科目の合計点とする。

*3 数学科では、大学入試センター試験の受験を要する教科として、「国語」、「地理歴史・公民から 1」、「数学」、「理科」及び「外国語」の 5 教科を課しているが、可否の判定には、「外国語」のみを用いる。ただし、第 1 段階選抜を実施する場合は、大学入試センター試験の「国語」(50 点)、「地理歴史・公民から 1」(25 点)、「数学」(50 点)、「理科」(50 点)、「外国語」(100 点)の配点とする。

【後期日程】 【生活科学部】

大学入試センター試験にかかる詳細は 11～13 ページを参照。

試験区分 教科・科目等	大学入試センター試験						本学の試験	
	国語	*1 地歴 公民	*2 数 学	*2 理 科	外国語	合 計	面 接	
食 物 栄 養 学 科	50	50	200	200	200	700	*3	
人 間 ・ 環 境 学 科	50	50	200	200	200	700	*3	

〔注〕

*1 大学入試センター試験「地理歴史・公民」から 1 科目選択。

*2 大学入試センター試験「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の 2 科目の合計点とする。

*3 本学の試験「面接」は、ABC 評価により合格判定の資料とする。

(4) 実技検査

○ 芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」志願者に次の検査を行う。

1 必須課題

舞踊・スポーツに必要な身体支配能力をみるための基礎運動

2 選択課題

下記のア、イのいずれかを選択すること。

ア. 舞踊（下記の①と②を行う。）

① 既成作品：モダンダンス、バレエ、日本舞踊、民族舞踊、マイム、新体操などの表現領域から作品を自由に選択し、1分以内に演じる。自作・他作どちらでも可。

<使用する音源について>

使用する音源は予めCD-Rに録音（書き込み）し、持参すること。

<録音（書き込み）に関する注意事項>

・CD-Rへの録音（書き込み）はWAVやAIFF、MP3、WMAなどのファイルを記録する「データCD形式」ではなく、一般の音楽CDと同じ「オーディオCD（CD-DA）形式」で行うこと。

・パソコンではなくCDレコーダーで録音する場合は、最後に必ずファイナライズをすること。ファイナライズをしていないCD-Rは他の機器では再生不可能。

・録音（書き込み）をしたCD-Rは、必ずラジカセやミニコンポなど複数のCDプレーヤーで再生できることを確認の上、持参すること。

② 創作：課題は当日提示する。

イ. スポーツ（下記の①から③の全種目を行う。）

① バレーボール

② バスケットボール

③ バドミントン

・ 実技検査に持参するもの

① 体育館シューズ（全受験者）

② 各自課題に必要な服装〔ゼッケン（縦15cm×横20cmの白布に本学の受験番号を記入したもの）を前面または背面に縫い付ける〕、用具、靴等

③ 音源（「選択課題 ア. 舞踊」選択受験者のみ）

・ 「選択課題ア. 舞踊」の試験場の床はリノリウムである。松脂の使用は不可。また、タップダンスなどで底の硬い靴を使用する場合は、こちらで用意した2m四方の板の上で行う。

「選択課題イ. スポーツ」の試験場はフローリングである。

・ 「選択課題ア. 舞踊」の試験場の高さは2m76cmと低いため、新体操等での手具を投げる演技は不可。

[注]

推薦入試、帰国子女・外国学校出身者特別入試の実技検査については、「2 選択課題」に関しては「ア. 舞踊」のみを必須課題とする。

○芸術・表現行動学科「音楽表現コース」志願者に次の検査を行う。

- 1 ソルフェージュ：以下の a、b を実施する。
 - a. 聴音（単旋律と 2 声体、及び 4 声体の和声）
 - b. 新曲視唱
 - 2 演奏課題：以下の a、b、c を実施する。
 - a. 声楽：イタリア古典歌曲（原語）※注1の中から任意の 1 曲を演奏すること。
 - b. ピアノ：以下の①と②をこの順番で演奏すること。
 - ①音階（ハノン 39 番に準拠。全調より当日抽選によって各自の課題調（長調とその平行調）を決定。長調は繰り返しなし、短調は和声的・旋律的音階を各 1 回演奏すること。）
 - ② J. S. バッハの《インヴェンション》または《シンフォニア》から任意の 1 曲
 - c. 以下の①または②のいずれかを選択すること。
 - ① 声楽：日本歌曲又は、アリア（原語・原調）か外国歌曲（原語）の中から任意の 1 曲を演奏すること。
 - ② ピアノ：ベートーヴェンのピアノソナタの中から任意の 1 曲の第一楽章を演奏すること。
※注1：パリゾッティ版に準拠。
- ☆注意点
- ・演奏実技は、すべて暗譜で行うこと。
 - ・声楽の演奏実技（a、及び、c①）について：受験者は必ず伴奏用楽譜を提出すること。
 - ・楽譜には氏名を明記し、出願書類と共に送付すること。なお、伴奏用楽譜は返却しない。

〔注〕

推薦入試、帰国子女・外国学校出身者特別入試及び私費外国人留学生特別入試の実技検査については、
「1. ソルフェージュ」の a を、次のとおり変更して実施し、他の検査は同様とする。
a. 聴音（単旋律、及び 2 声体）

8 心身に障害等のある入学志願者の出願

本学に入学を志望する者のうち、心身に障害あるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする者（点字又は代筆による解答を希望する者を含む）については、事前相談を行うので、原則として平成 28 年 12 月 15 日（木）までに本学入試課に申し出てください。その際、「受験上の配慮事前相談申請書」や「医師の診断書」等を提出していただく場合があります。

なお、受験上の配慮を講じる必要はないまでも、修学上の不安等を感じる者も、同様の問い合わせをしてください。

9 入学者選抜等に関する問合せ先

〒112-8610 東京都文京区大塚 2 丁目 1 番 1 号
お茶の水女子大学入試課 電話 03-5978-5151・5152

月曜日～金曜日（祝日は除く） 9時～17時 ※問合せはできるだけ志願者本人が行ってください。

10 お茶の水女子大学入試情報ホームページ

インターネットを利用して、入試情報を知ることができます。
（出願の状況、第 1 段階選抜の有無、追加合格の実施の有無など。）

お茶の水女子大学HP→ 入試情報 NEWS&INFO
入試課のホームページURLは次のとおりです。

入試課ホームページURL (<http://www.ao.ocha.ac.jp/>)

11 平成 30 年度一般入試（平成 30 年 4 月入学）に関する変更の予告

人間社会科学科は、学部一般入試前期日程における出題教科の「数学」と「国語」について、平成 29 年度入試までは必須のところ、平成 30 年度から選択教科（「数学」または「国語」）に変更いたします。

「英語」についての変更はありません。

V. AO 入試 (新フンボルト入試)

1 本学の教育理念とAO入試 (新フンボルト入試) アドミッション・ポリシー

お茶の水女子大学では、グローバル女性リーダーの育成を教育目標に掲げ、さまざまなプログラムを設けています。専門的な知識を多様な場で使いこなせる土台を育成するための「21世紀型文理融合リベラルアーツ」科目群を平成20年度から新設し、さらに創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ女性の育成を実現するために、平成23年度から学生主体の「複数プログラム選択履修制度」を専門教育課程に導入するとともに、総合学修支援センターを新設して主体的な学修プロセスの実現をサポートする体制を整えました。平成24年度からは、グローバル人材育成推進事業において、大学教育のグローバル化を目的としたカリキュラム整備を行い、国際的な場で活動する人材を育成するための語学教育、国際学、多文化交流などのプログラムをいっそう強化し、海外の交流協定校への留学を推奨しています。平成26年度からは在学中に海外で学びやすいように、四学期制も導入しました。

こうした本学の教育システムで学ぶことを志す意欲的で可能性に満ちた学生を受け入れるため、平成29年度入試から新たなAO入試を導入します。今回導入する新型AO入試は、1次選考を兼ねるプレゼミナールと2次試験を各々2日かけて行うという二段構えの、手間暇をかけたユニークな入試です。

まずプレゼミナールでAO受験者に大学の授業をじかに体験してもらい(受講を必須とします)、そこでのミニレポートや他の提出書類を評価して1次選考を行います。2次選考では、文系は本学附属図書館を舞台に文献や資料を駆使しつつレポートを作成してもらいます。また、グループ討論や面接を通じて論理力や課題探求力、独創性などを評価します(図書館入試)。理系は各学科の専門性に即した実験や実験演示、データの分析等の課題を課したり、高校での学びを活かした課題研究発表などを行ってもらい、探究する力をみます(実験室入試)。その成果やプロセスを評価することで、いわゆるペーパーテストで測れない潜在的な力(ポテンシャル)を丁寧に見極めたいと考えています。単なる知識(暗記)量の多寡ではなく、その知識をいかに「応用」できるかを問う入試です。

この入試を通して、基礎学力をしっかりと身につけたうえで広く深くものごとを探究することのできる人、入学してからの学修で、さらには社会に出てから、あるいは大学院に進んで研究を続けていくなかで、ますますその才能を磨き伸ばしていけるような、豊かな可能性をもっている人を迎え入れたいと考えています。今高校で学びながら育てている力をそのままこの入試にぶつけてみてください。

2 求める人物像

本学での勉学に強い意欲と専門性を磨いていくために必要となる十分な基礎的学力をもっていること。そしてそれに加えて、文理を問わずさまざまな事象に強い知的好奇心を持ち、そこで課題を自ら発見し、それを粘り強く探究していく力、独創的な解を導けるようなポテンシャルを備えている人を受け入れたいと思います。

具体的には、以下の項目のいずれかひとつ以上に当てはまる方を求めます。

1. 知識や意見を人に伝え、実践するためのコミュニケーション能力や応用力を備えている。
2. 真理の探究と価値の創造に対する憧憬と幅広い興味・関心をもっている。
3. 自分の将来と社会の未来へのビジョンを明確にもっている。
4. グローバルな視野をもって思考し、国際的な場での活動を希望している。

3 学科の受入方針

◆文教育学部

【人文科学科】

人文科学科は、人類のさまざまな歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけ出し、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきてほしいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、1年次末に、人文科学科の各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。

AO入試では、英・数・国の基礎学力をバランスよく備え、自分の将来像をある程度、具体的にもっている学生を望みます。

【言語文化学科】

言語文科学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの4つのコースがあります。これらのコースにおいては、当該の言語の深い理解と高度な運用能力を身に付けることを目指し、またそれぞれの言語圏の文学や文化の本格的な分析を行います。そのためにこの4つのコースのいずれにおいても、文理両分野における十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心と、言葉への強い愛着を持った学生を求めます。

入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、1年次末に主プログラムを決定します。

【人間社会科学科】

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学）、心理的側面を考察したり（心理学）、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、3つの研究領域がありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。

高校ではさまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとって大変重要な基礎的能力を育成するのに必要です。また、地歴・公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、1年次末にいずれかのコースまたはグローバル文化学環の提供する主プログラムを選択することになります。（総合人間発達科学主プログラムは、入学時に選択します。）

※ グローバル文化学環

平成17年度に創設されたコースです。グローバル化する現代社会の課題を、①地域研究・地域文化、②多文化交流・多文化共生、③国際協力・国際関係、という3つの領域を組み合わせることで、動的に捉え、実践的に学んでいこうというのが、グローバル文化学環のコンセプトです。その特徴は、文教育学部の3つの学科（人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修を行うことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

◆ 理学部

【数学科】

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

本学AO入試で求める人物像に加えて、上記のような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

教師や研究者のように数学を職業としたい人

数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人

とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験者に求めるのは以下のことです。

高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。

文章から数学的な意味を読み取ることができる。

自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

【物理学科】

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。

更に、豊かな人間性ととともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。AO入試では、物理学に強い興味を持ち、物理コンテストなどへ積極的に参加した経験も評価します。また、大学での物理の授業を履修するうえで、高校での物理及び数学の十分な習得は必須ですので、これらの科目は指定科目になっています。

【化学科】

“化学”は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関連しており、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、高校では化学のほかにこれらの基礎となる数学や物理学の学習を通し、論理的な思考力の基礎をしっかりと身につけることに加え、生物学や地球科学を学び、広く自然科学の知識を身につけておくことが必要となります。また“化学”においては、実験と研究は表裏一体をなすものであることから、入学後には、実験を重視し、1年次から3年次にわたり、多様な化学の各分野についての実験科目を必修として課しています。さらに4年次に進むと、これらの実験科目の集大成と実際の化学研究の現場に参画してもらう意味を込めて、卒業研究が行われます。

以上のことに鑑み、このAO入試では、“化学”を学ぶために必要な基礎的な学力に裏打された”化学”への深く強い興味と関心に基づく積極的な学習意欲に加えて、実験に主体的に取り組み、その結果を整理し、論理的に考察し、結論を引き出す力を評価します。

【生物学科】

生物学では、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考えることができる柔軟な思考力と、それを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、より多くの知の蓄積に貢献できる人材に育つことを期待しています。AO入試では特に、“生き物”の謎に対する探究心を重視し、生物学のさまざまな領域において高い問題意識を持って、積極的かつ行動的に自ら探究した経験を評価します。また、自然科学を広く学習して、科学的な基礎知識や考え方を備えていることも評価します。入学後は、1年生から研究室に入って研究ができる環境がありますので、生物学科のカリキュラムと合わせて、生物学の専門性を高めることを希望します。

【情報科学科】

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」と呼ばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の的方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて21世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

情報科学科の先輩たちの中には、有名な国際会議において自分の研究を発表してきた人達が少なくありません。これは深い専門的素養を身に付けた上でのたゆまない研究が可能としたものです。入学してから輝かしい活躍をするためには、まず情報科学の専門教育に励むことが必要です。入試の要件に数学I、II、III、A、Bの全てを課しているのは、これを可能にするために最低限必要なことであり、講義や演習もこれらを習得していることを前提にして行われます。また情報科学では、ほとんどの新しい知識は英語で発信されるので、普通に情報科学を学ぶのにも基本として英語の実力が不可欠です。そして、一つの専門分野に閉じこもらず広くいろんな分野に通ずる学際性も必要です。理科の少なくとも1科目を要求しているのは学際性を支える最低の要件であり、その趣旨を全うするためには、本当は、少なくとも理科3科目を履修してきて欲しいところです。情報科学科では、高校で意欲的に学んできた、やる気に満ちた学生を歓迎します。

◆ 生活科学部

【食物栄養学科】

食物栄養学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養や健康に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために食物と栄養に関する様々な学問分野において、分子、遺伝子、細胞レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。本学科の教育の特徴は、長時間にわたる多数の実験や臨地実習を含む実習が必修となっていることです。実験・実習科目は1、2年より開講され、特に3年生の午後は毎日実験・実習が当てられています。所定単位を取り、本学科を卒業すると、栄養士免許が取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格と食品衛生監視員の任用資格が得られます。また、栄養教諭（一種）免許を取得することも可能です。

本学科の教育研究は実験科学を基盤とした上で生活や社会との接点を重視するため、本学に進学する学生には、忍耐強く実験・実習に取り組めること、自ら考え行動できること、他人とコミュニケーションをとりながらものごとを進められることを望みます。高等学校では、理数系の基礎をしっかりと履修すること並びに生活に即した学習を重視すること、具体的には、理科については物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物のうち2科目以上を、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bを履修しておくこと、家庭科や体育などの実技科目にも積極的に取り組むことを求めます。

【人間・環境科学科】

科学は、その普遍性・客観性・論理性を武器に、世界の仕組みを明らかにしてきました。しかし、その成果を実際に社会の中で役立てるためには、科学が精密に分析してきたメカニズムを総合して設計する多様な工学的手法の理解が不可欠です。しかしそれだけでは不十分です。社会や生活の中で課題が生じたらその現場を、当事者と同じひとりの人間として理解する必要があります。両者の理解によりはじめて、真に課題を解決できる工学的方法の創造が実現します。本学科は、社会や生活に真に貢献する科学技術の導入を目指しています。学科の柱となる学問分野には、建築設計学、建築計画、自然人類学、建築環境工学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境評価学、水環境工学などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を本学科は、歓迎します。本学科では、建築関連科目を中心に一定の基準に従い履修を行うことで、一級建築士の受験資格を得ることができます。志願される方は、高等学校で理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。出願には、数学については数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bを、理科については物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、地学基礎・地学のうち2科目以上を履修しておくことが必要です。

【人間生活学科】

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する3つのアプローチによって目指しています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んで欲しいと思います。

志願される方は、人間生活学科の3つのアプローチを踏まえ、高等学校において地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、1年次末に主プログラムを選択することになります。

4 募集人員・出願要件〔AO入試（新フンボルト入試）〕

受入学部・学科	文教育学部：人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科 理学部：数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科 生活科学部：食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科
募集人員	全学で20名以内
出願資格	次の①～②の全ての要件に該当する女子 ①高等学校又は中等教育学校を平成27年3月以降卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者 ②お茶の水女子大学での勉学を強く希望し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者
出願期間	出願は郵送により受付を行う。 平成28年8月29日(月)～9月1日(木)【必着】 ※8月31日(水)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。
選考方法	第1次選考は、平成28年9月24日(土)に行うプレゼミナール受講後に作成したレポートや、出願時に提出する志望理由書・活動報告書・外国語試験成績等を総合的に判定する(プレゼミナール初日の参加は必須とする)。選考結果は平成28年10月3日(月)に本人宛に郵送(速達)により通知する。 第2次選考は、次ページ「(3)第2次選考」を参照のこと。 選考の結果は10月24日(月)に学内掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)により通知する。
備考	1. AO入試出願者については、高等学校のほか高等専門学校及び高等部を置く特別支援学校並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設出身者を含む。 2. 本学に入学を志望する者のうち、心身に障害あるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする場合は、事前相談【一般入試に準ずる(19ページ参照)】を行うので、平成28年8月22日(月)までに入試課に申し出ること。

※受け入れ学科・学部のうち文教育学部の3学科及び生活科学部人間生活学科を「文系学科」、理学部5学科及び生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科を「理系学科」と呼ぶ。

(1) 出願要件

- ① 調査書の学習成績概評がA段階であることが望ましい。
- ② 学科別に指定されている下記の科目(指定科目)について、履修し単位を得ているか、入学時まで単位を取得済みであること。

文教育学部	人文科学科	指定科目なし
	言語文化学科	指定科目なし
	人間社会科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B
理学部	数学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B
	物理学科	物理基礎・物理及び数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B
	化学科	化学基礎・化学、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)又は(生物基礎・生物)の2組のうちいずれか1組
	生物学科	生物基礎・生物、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)又は(化学基礎・化学)の2組のうちいずれか1組
生活科学部	情報科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)、(生物基礎・生物)の3組のうちいずれか1組
	食物栄養学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bと、(物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)、(生物基礎・生物)の3組から2組
	人間・環境科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)、(生物基礎・生物)、(地学基礎・地学)の4組から2組
人間生活学科	指定科目なし	

※外部外国語検定試験について

- ・文系学科・理系学科志望者ともに、次の外国語検定試験のスコア・級をもっていれば提出すること。
TOEFL、IELTS、TEAP、英検、TOEIC、GTEC

(2) 第1次選考〔9月24日(土) (プレゼミナール初日)〕

9月24日(土)プレゼミナール初日のいずれかのセミナーを必ず受講すること。プレゼミナールの詳細については、「2016年プレゼミナールのご案内」パンフレットを参照すること。

セミナー受講時に作成するミニレポートや、出願時に提出する志望理由書・活動報告書・外国語試験成績等を総合的に評価し第1次選考を行う。

※ 生物学科は出願時に、自主研究発表のポスター(A4判に縮小印刷)の提出を必須とする。

※ なお、プレゼминаールは9月24日(土)、9月25日(日)の2日間にわたって開催し、それには受験者以外の高校2・3年生や高校教員が参加できることとなっている。

(3) 第2次選考〔10月15日(土)・16日(日) (理系は15日のみ)〕

第1次選考合格者に対し、文系理系それぞれで、下記のような選考を行う。

(A) 文系学科「図書館入試」

- 1日目は、附属図書館で図書などを自由に参照しつつ課題についてのレポートを作成する。
- 2日目は、グループ討論と面接を課す。

(B) 理系学科「実験室入試」

それぞれの学科の特性を生かした丁寧な選考を実施する。

- (1) 理学部生物学科は、自主研究のポスター発表を課す(自主研究のポスター発表を中心とした、これまでの高校での取り組みを評価する試験)。
- (2) 生活科学部食物栄養学科は、自主研究のポスター発表・質疑応答と個人面接を課す。自主研究のテーマは自由、ポスターの大きさは、縦180cm×横90cmのボードに収まるサイズとし、第2次選考の当日に持参すること。
- (3) 生活科学部人間・環境科学科は、自主研究のポスター発表・質疑応答を課す。自主研究のテーマは自由、ポスターの大きさは、縦180cm×横90cmのボードに収まるサイズとし、第2次選考の当日に持参すること。
- (4) 上記以外の理系学科は、思考力や探求力などの能力をみる専門性のある試験課題を課す。
例) 実験、実験演示や実験データをもとにして考察する／黒板などを使って考え方を説明する。

※本入試の詳細については必ず大学ホームページ (<http://www.ocha.ac.jp/>) 及び募集要項で確認してください。

5 平成30年度AO入試(平成30年4月入学)に関する変更の予告

平成30年度入試以降には、文系学科志望者は、外国語検定試験(TOEFL、IELTS、TEAP、英検、TOEIC、GTEC)のスコア・級の提出を必須とします。(※TOEFL、TOEICについては、団体特別受験制度によるスコアは認めません。また、提出していただくスコア・級の写しについては、プレゼминаール初日からさかのぼり原則として2年以内に受験したものとします。)

VI. 推薦入試

1 学科の受入方針

◆ 文教育学部

【人文科学科】

人文科学科は、人類のさまざまな歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、学科共通進学コースとしてのグローバル文化学環を含め、1年次末に各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。

なお主プログラムの選択は、他の選抜方式で入学した学生と同じ条件で行われます。

【選考方法】

第1次選考合格者に対し、第2次選考を行います。第2次選考では、自分が学びたいと考えている専門分野（哲学・倫理学・美術史、歴史学、地理学）についての基本的知識や考え方（問題意識）、意欲や資質などを見るため、小論文と面接（口述試験を含む。）を課し、総合的に可否を判断します。

（小論文）課題文や資料を読んだうえで、設問に沿って論述してもらいます。課題文・資料の内容を十分に把握し（読解力）、自分なりの論理を組み立て（論理展開力や独創性）、それを適切かつ表現豊かに論述できるか（表現力）、を評価の対象とします。

（面接）質疑を通して、将来の勉学の計画や自分の考えなどを明確にもち、かつそれを的確に表現できるかといったコミュニケーション能力を見ます。

【言語文化学科】

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの4つのコースがあります。対象となる言語はそれぞれ異なりますが、中国語やフランス語の場合にはその初歩から上級までの修得、日本語や英語の場合には当該言語のより深い理解を目指し、またそれぞれの言語で表現された作品の本格的な研究に取り組むこととなります。

「ことば」というものの面白さに興味を持ち、そこに何かを発見したいと思っている皆さん、また洗練された語学力を身につけて広い世界へ足を踏み出そうと考える皆さん、また「文学・芸術」が好きで、ただ鑑賞するだけでなく「その先」へ進みたいと思っている皆さんを歓迎します。

【選考方法】

当学科の推薦入試では、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースのいずれかでの学習と研究に特に強い興味と意欲を持ち、勉強したい専門分野のはっきりしている受験者を求めます。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、1年次末に主プログラムを決定します。

選考は書類による第1次選考と、小論文及び面接（口述試験を含む。）による第2次選考に分かれます。第2次選考の小論文では、それぞれの志望分野に相応しい読解力や表現力、論理の展開力、志望分野に対する関心や問題意識の高さなどを評価します。面接では、質疑を通して自らの志向・個性などを相手に的確に伝えるコミュニケーション能力や自己表現力を見ます。

【人間社会科学科】

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学）、心理的側面を考察したり（心理学）、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、3つの研究領域があります。

【選考方法】

当学科の推薦入試では、子どもや大人の学習・教育の勉学や、教育問題の研究に強い意欲をもち、将来、教育科学主プログラムまたは総合人間発達科学主プログラムを選択して、教育思想、教育史、教育社会学、文化人類学、教育方法学、教育課程論、教育開発論、教育行財政学、生涯学習論といった、教育科学の様々な研究方法を通して、教育問題に迫り、その上で大学院に進んで教育科学の研究を深めたい、あるいは小学校の教員その他の教育関係の職に就きたいと考えている学生の出願を前提とします。

高校では、さまざまな教科や科目について幅広く学んでください。特に、国語・英語（外国語）・数学は、大学での学習と研究にとって大変重要な基礎的能力を育成するのに役立つでしょう。このほか地歴・

公民や理科の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

推薦入試は、第1次選考を出願書類の審査によって行い、第2次選考では教育科学に関する小論文と面接(口述試験を含む。)によって総合的に判断します。

【芸術・表現行動学科】

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制度をとっておりません。受験の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

【舞踊教育学コース】：

本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる人材を求めています。舞踊は高校で学ぶ全ての教科と関連していますので、幅広く学習を進めてください。その上で、保健体育、国語及び英語については特に重点的に学習し、基本的な運動能力、文章表現力、英文の読解力をきちんと身につけてきてください。

推薦入試では第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・面接(口述試験を含む。)を行います。

【音楽表現コース】：

音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。高校で学ぶ教科はすべて重要ですが、音楽は言うまでもなく、英語と世界史はしっかりと身につけてきてください。

推薦入試では第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・面接(口述試験を含む。)を行います。

◆ 理 学 部

【数 学 科】

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人
- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験者に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

【選考方法】

推薦入試では、書類選考のほか、面接(口述試験を含む。)を行います。面接ではあらかじめ数学的内容の質問事項をいくつか提示し、考えを整理してもらう時間を設けます。その上でそれらについてどのように考えたかなど色々なことを質問します。基本的なことがらを筋道正しくきちんと考えることができ、かつ説明できるかが試されます。

合格の判定は提出書類(高校での成績、志望理由書、推薦書など)と面接の結果を総合して行われます。

【物理学科】

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。(もちろん、必要になれば教員の適切な助言及び指導を受けることができます。)また、豊かな人間性ととともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会で指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら、究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

【選考方法】

推薦入試では、高等学校長作成の調査書・推薦書に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、物理学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。補足資料(自由研究レポート、実験ノート、それまで関心を持ち続けたテーマについて考えをまとめたノート等のコピー)の添付を認めているのも、自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を発見したいためです。

第1次選考合格者に対しては、2種類の面接(口述試験を含む。)を課しています。別室で解かせた計算問題に関する質疑応答から計算力と理解力を問う口述試験(20分間)と、様々な物理現象を直観的に説明させることから自由な発想力と直感力を問う口述試験(20分間)の2種類がこれにあたります。可否は出願書類と2種類の面接を総合して判定します。

【生物学科】

生物学では、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、より豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

【選考方法】

多様な領域を含む生物学を学ぶには、多彩な才能の持ち主を期待します。第1次選考合格者に対し、論述試験と面接(口述試験を含む。)を課します。論述試験では、生物学を中心とした科学の基礎知識、科学的文章の読解力、論理的表現力を判定します。面接では、面接担当教員との質疑応答を通して、自らの生物学の知識と考え方、社会に向き合う態度、将来への明確な展望、思考能力、個性や才能等、さらに、これらを面接担当教員に的確に伝える能力を重視します。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

【情報科学科】

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」と呼ばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。

情報科学を通じて21世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

【選考方法】

高等学校長作成の調査書・推薦書に加えて本人が記載する志望理由書の内容が、情報科学科のアドミッション・ポリシーに合致するかどうかを重視しています。また第1次選考合格者に対しては、面接(口述試験を含む。)を課しています。特に数学の問題に関する質疑応答から推論力とコミュニケーション能力及び問題分析能力と解決能力を問う口述試験を行います。出願書類とこの口述試験を総合的に評価して合格判定を行っています。なお、入学後の講義は高校における数学Ⅲの知識と外国語(特に英語)能力を仮定して行われます。ただし入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

◆ 生活科学部

【人間生活学科】

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化など様々な面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する3つのアプローチによって目指しています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多面的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲のある人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したい人、潤いのある生活を実現しようという熱意のある人を歓迎します。志望者には、本学科の3つのアプローチを踏まえ、高校で地理歴史・公民の諸科目など文科系の基礎を幅広く履修していることを望みます。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、1年次末に主プログラムを選択することになります。

【選考方法】

書類による第1次選考と、その合格者に対する第2次選考の2段階で行います。第1次選考では、調査書、志望理由書、推薦書によって基礎学力や専門領域への適性を評価します。第2次選考の面接(口述試験を含む。)では論理的思考力・自己表現力・志望領域に対する問題意識などを総合的に評価します。

2 募集人員・出願要件〔推薦入試〕

◆ 文教育学部

学 部		文教育学部
募集人員		人文科学科（12名） 言語文化学科（16名） 人間社会科学科（6名） 芸術・表現行動学科 ・舞踊教育学コース（3名） ・音楽表現コース（4名）
出願資格		平成28年度中(平成28年4月～平成29年3月)に高等学校(中等教育学校を含む)を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が、以下の要件に該当すると認め、責任をもって推薦できる者
推 薦 要 件	人 文 科 学 科	次の①又は②のいずれかに該当する者 ① 調査書の学習成績概評が、Aの者 ② 次のa～cのいずれかに該当する者 a.哲学、倫理学、美術史のいずれかの分野に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者 b.歴史学に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者 c.地理学に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者
	言 語 文 化 学 科	次の①と②の双方に該当する者 ①調査書の学習成績概評が、A以上の者 ②将来の専門的研究への意欲的なビジョンを持ち、次のいずれかに該当する者 a.「日本語・日本文学コース」： 国語の成績がきわめて優秀で、日本語・日本文学の研究に強い意欲を有する者 b.「中国語圏言語文化コース」： 中国語または国語または英語の成績がきわめて優秀で、中国語・中国文学の研究に強い意欲を有する者 c.「英語圏言語文化コース」： 英語の成績がきわめて優秀で、英語や英語圏の文学・文化の研究に強い意欲を有する者 d.「仏語圏言語文化コース」： フランス語または英語または国語の成績がきわめて優秀で、フランス語・フランス語圏の文化の研究に強い意欲を有する者 なお、出願に際しては当学科の受入方針26ページも参照すること。
	人 間 社 会 科 学 科	次の①と②の双方に該当する者 ①調査書の学習成績概評が、A以上の者 ②教育学(人間社会科学の受入方針26ページ参照)の勉学に強い意欲を有する者
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評が、Aの者 ②「舞踊教育学コース」：舞踊において、特に優れた能力と意欲を有する者 「音楽表現コース」：音楽において、特に優れた能力と意欲を有する者
出願期間		出願は郵送により受付を行う。 平成28年11月1日(火)～11月4日(金)【必着】 ※11月3日(木)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。
選 考 方 法	出願書類の審査により第1次選考を行い、選考結果は平成28年11月16日(水)に本人宛に郵送(速達)により通知する。	
	人 文 科 学 科 言 語 文 化 学 科 人 間 社 会 科 学 科	第2次選考は、第1次選考合格者に対し、志望学科による小論文と面接(口述試験を含む)を課し総合的に判定する。なお、第2次選考は平成28年11月26日(土)・27日(日)に行い、選考の結果は12月8日(木)に学内掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)により通知する。
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	第2次選考は、第1次選考合格者について小論文と面接(口述試験を含む)及び実技検査を課し、本学の必修科目を受講するのに必要な能力を基準として、総合的に判定する。なお、第2次選考は平成28年11月26日(土)・27日(日)に行い、選考の結果は12月8日(木)に学内掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)により通知する。 【実技検査については、一般入試(18～19ページ)を参照のこと。】
備 考		1. 推薦を行う者については、高等学校長のほか高等専門学校長及び高等部を置く盲・聾・養護学校長並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設の長を含む。 2. 本学に入学を志望する者のうち、心身に障害あるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする場合は、事前相談【一般入試に準ずる(19ページ参照)】を行うので、平成28年9月29日(木)までに入試課に申し出ること。

◆ 理学部・生活科学部

学部	理学部	生活科学部
募集人員	数学科 (4名) 生物学科 (4名) 物理学科 (3名) 情報科学科 (7名)	人間生活学科 (12名)
出願資格	平成 28 年度中(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)に高等学校(中等教育学校を含む)を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者	
推薦要件	①調査書の学習成績概評がAの者 ②志望学科に関連する科目において特に優れた能力と意欲を有する者	①調査書の学習成績概評がAの者 ②志望学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者
出願期間	出願は郵送により受付を行う。 平成 28 年 11 月 1 日(火)～11 月 4 日(金)【必着】 ※11 月 3 日(木)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。	
選考方法	出願書類の審査により第 1 次選考を行い、選考結果は平成 28 年 11 月 16 日(水)に本人宛に郵送(速達)により通知する。 第2次選考は、第 1 次選考合格者に対し、志望学科による論述試験(生物学科のみ)と面接(口述試験を含む)を課し、総合的に判定する。 なお、第2次選考は平成 28 年 11 月 26 日(土)に行い、選考の結果は 12 月 8 日(木)に学内掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)により通知する。	出願書類の審査により第 1 次選考を行い、選考結果は平成 28 年 11 月 16 日(水)に本人宛に郵送(速達)により通知する。 第2次選考は、第 1 次選考合格者に対し、志望学科による面接(口述試験を含む)を課し、総合的に判定する。 なお、第2次選考は平成 28 年 11 月 26 日(土)に行い、選考の結果は 12 月 8 日(木)に学内掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)により通知する。
備考	1. 推薦を行う者については、高等学校長のほか高等専門学校長及び高等部を置く盲・聾・養護学校長並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設の長を含む。 2. 本学に入学を志望する者のうち、心身に障害あるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする場合は、事前相談【一般入試に準ずる(19 ページ参照)】を行うので、平成 28 年 9 月 29 日(木)までに入試課に申し出ること。	

3 外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英語検定など)の取扱いについて

次の学科の志望者は、外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英語検定等)に関して、下表のとおり定めます。

学部	学科	摘要
文教育学部	人文科学科 人間社会科学科	外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
	言語文化学科	外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英検、HSK、中検、仏検、独検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
理学部	生物学科	外国語検定試験(TOEFL、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。
	情報科学科	英語に対する取組み、外国語検定試験等の成績を推薦書、志望理由書に記載すること。
生活科学部	人間生活学科	外国語検定試験(TOEFL、IELTS、TOEIC、英検)のスコア・級を持っている者は、その写しを提出すること。

〔注〕

1. TOEFL、TOEICについては、団体特別受験制度によるスコアは認めない。
2. スコア・級の写しについては、本学入学試験日からさかのぼり2年以内に受験したものとす。

4 平成 30 年度推薦入試(平成 30 年 4 月入学)に関する変更の予告

特に変更の予定はなし。

Ⅶ. 帰国子女・外国学校出身者特別入試

1 学科の受入方針

◆文教育学部

【人文科学科】

人文科学科は、人類のさまざまな歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

入学前には、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心をもったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある学生の皆さんの入学を希望します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術史コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、入学後、自分が何を学びたいのかを見極め、1年次末に各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。なお主プログラムの選択は、他の選抜方式で入学した学生と同じ条件で行われます。

【選考方法】

第1次選考合格者に対し、第2次選考を行います。第2次選考では推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、及びそれを本学入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。

【言語文化学科】

言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの4つのコースがあります。対象となる言語はそれぞれ異なりますが、中国語やフランス語の場合にはその初歩から上級までの修得、日本語や英語の場合には当該言語のより深い理解を目指し、またそれぞれの言語で表現された作品の本格的な研究に取り組むこととなります。

「ことば」というものの面白さに興味を持ち、そこに何かを発見したいと思っている皆さん、また洗練された語学力を身につけて広い世界へ足を踏み出そうと考える皆さん、また「文学・芸術」が好きで、ただ鑑賞するだけでなく「その先」へ進みたいと思っている皆さんを歓迎します。

【選考方法】

当学科の帰国子女・外国学校出身者特別入試では、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースのいずれかでの学習と研究に特に強い興味と意欲を持ち、勉強したい専門分野のはっきりしている受験者を求めます。また、外国での学校生活から多くを学び、大学でその経験を生かした研究活動を進めることのできる皆さんの応募を期待しています。入学後は一般入試で入学した学生と同じ条件で、1年次末に主プログラムを決定します。

選考は書類による第1次選考と、小論文及び口述試験による第2次選考に分かれます。第2次選考の小論文では、それぞれの志望分野に相応しい読解力や表現力、論理の展開力、志望分野に対する関心や問題意識の高さなどを評価します。口述試験では、質疑を通して、自らの志向・個性などを相手に的確に伝えるコミュニケーション能力や自己表現力を見ます。

【人間社会科学科】

人間社会科学科では、人間について深い理解を持ち、その理解を現実的な場面で役立てていこうとする意欲ある人を求めます。当学科には、人間の意識や行動の社会的側面を考えたり（社会学）、心理的側面を考察したり（心理学）、人間の発達について多角的に考える（教育科学）という、3つの研究領域があります。

【選考方法】

帰国子女・外国学校出身者特別入試においては、第1次選考合格者に対して、教育科学に関する小論文及び口述試験を課します。これに関するポリシーは推薦入試(26ページ)と同様で、将来、教育科学主プログラムまたは総合人間発達科学主プログラムを選択して、教育問題にさまざまな研究方法から迫りたいと考えている学生の出願を前提とします。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに、口述試験において外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、教育科学に関する小論文と口述試験の内容を総合して判断します。

【芸術・表現行動学科】

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制度をとっておりません。受験

の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

【選考方法】

【舞踊教育学コース】：

本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。

帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・口述試験を行います。この基準に加え面接にて、外国での学校生活において体験したこと・学んだことと自身の舞踊との関わりなどに関する質疑応答があります。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

【音楽表現コース】：

音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。

帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、第1次書類選考合格者に対し、小論文・実技検査・口述試験を行います。この基準に加え面接にて、外国での学校生活において体験したこと・学んだことと自身の音楽との関わりなどに関する質疑応答があります。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

◆ 理 学 部

【数学科】

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人
- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験者に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

【選考方法】

帰国子女・外国学校出身者特別入試においては、第1次選考合格者に対して、口述試験を行います。口述試験のうち数学に関わるポリシーは推薦入試と同様です。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに、外国における学校生活から何を学んだのか、及び本学入学後それをどのように活かそうと考えているのかを訊ねます。合格判定は、出願書類と口述試験を総合して行います。

【物理学科】

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言及び指導を受けることができます。）また、豊かな人間性ととともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

【選考方法】

帰国子女・外国学校出身者特別入試では、第1次選考合格者に対して、2種類の口述試験を課しています。これに関するポリシーは推薦入試と同様です。帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、さらに外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学に入学後どのように活かそうと考えているのかを問います。合格は、出願書類と2種類の口述試験（各々20分間）を総合して判定します。

【生物学科】

生物学では、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、より豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

【選考方法】

推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのが重視されます。合格判定は、出願書類と第2次選考の成績を総合して行います。

【情報科学科】

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人・さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理科学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。

情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

【選考方法】

帰国子女・外国学校出身者特別入試においては、第 1 次選考合格者に対して、筆記試験及び口述試験を課しています。筆記試験では、理系の基本的な能力を問うための数学の試験と、表現力及び自分で考えながら論述する能力を問うための小論文を課しています。口述試験では、入学後の必修講義に対応できるだけの数学等の学力が備わっているかどうかを判断します。さらに帰国子女・外国学校出身者特別入試の場合には、外国における学校生活から何を学んだのか、及びそれを本学科に入学後どのように活かそうと考えているのかも問われます。合格判定は、出願書類を参考にしながら、筆記試験の合計点と口述試験の内容を総合して判断しています。

なお、情報科学科に入学後の講義は高校程度の外国語（特に英語）能力を仮定して行われます。ただし入学時にコンピュータを使えることは仮定しません。

◆ 生活科学部

【人間生活学科】

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

本学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する 3 つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の 3 つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ本学科で学んでほしいと思います。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、1 年次末に主プログラムを選択することになります。

【選考方法】

推薦入試の基準や判定に加え、外国における学校生活から学んだこと、それを本学入学後にどう活かそうと考えているのかが問われます。合格判定は、出願書類と第 2 次選考の成績を総合して行います。

2 募集人員・出願要件〔帰国子女・外国学校出身者特別入試〕

実施学部・学科	文教育学部：人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科
	理学部：数学科、物理学科、生物学科、情報科学科
	生活科学部：人間生活学科
募集人員	入学定員のうち若干名
出願資格	<p>日本国籍を有する女子及び日本国の永住許可を得ている女子で、保護者の海外勤務などの事情により、次のいずれかに該当する者</p> <p>ア. 外国の正規の教育制度に基づく教育機関において、12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。)を平成27年4月1日から平成29年3月31日までに卒業(修了)した者または卒業(修了)見込みのもので、外国において最終学年を含め2年以上(2学年相当修了も含む)継続して学校教育を受けている者</p> <p>イ. 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が出願資格授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成29年3月31日までに満18歳に達する者</p> <p>ウ. 外国において、ドイツ連邦共和国の各州で大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成29年3月31日までに満18歳に達する者</p> <p>エ. 外国において、フランス共和国の大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成29年3月31日までに満18歳に達する者</p> <p>(注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校(文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有していると認定した在外教育施設)に在学した期間については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない</p>
選考方法	<p>入学者の選抜は、次の第1次選考、第2次選考に分けて行う。</p> <p>①第1次選考：出願書類を資料として行い、選考結果は本人宛に郵送(速達)による通知する。</p> <p>②第2次選考：第1次選考合格者に対し第2次選考を行う。</p>
出願期間	<p>出願は郵送により受付を行う。</p> <p>平成28年11月1日(火)～11月4日(金)【必着】</p> <p>※11月3日(木)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。</p>
第1次選考	平成28年11月16日(水)に本人宛に郵送(速達)により通知する。
第2次選考	<p>第2次選考は平成28年11月26日(土)、27日(日) 下表を参照。</p> <p>*27日(日)は文教育学部のみ。</p>
合格発表	<p>平成28年12月8日(木)</p> <p>学内掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)により通知する。</p>
備考	<p>本学に入学を志望する者のうち、心身に障害あるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする場合は、事前相談【一般入試に準ずる(19ページ参照)】を行うので、平成28年9月29日(木)までに入試課に申し出ること。</p>

第2次選考

文教育学部	人文科学科	小論文及び口述試験を行う。
	言語文化学科	小論文及び口述試験を行う。
	人間社会科学科	小論文及び口述試験を行う。
	芸術・表現行動学 学科	小論文、口述試験及び実技検査を行う。 (実技検査は一般入試18～19ページを参照)
理学部	数学科	口述試験を行う。
	物理学科	口述試験を行う。
	生物学科	論述試験及び口述試験を行う。
	情報科学科	<p>数学、日本語による小論文及び口述試験を行う。</p> <p>[注] 数学の出題範囲は次のとおり。 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B(数列、ベクトル)</p>
生活科学部	人間生活学科	口述試験を行う。

3 平成30年度帰国子女・外国学校出身者特別入試(平成30年4月入学)に関する変更の予告

特に変更の予定はなし。

Ⅷ. 私費外国人留学生(学部留学生)特別入試

1 学科の受入方針

◆ 文教育学部

【人文科学科】

人文科学科は、人類のさまざまな歩みの中から、未来の英知につながるあらゆる現象を広く文化としてとらえる人間の知の総合学を志しています。深く幅広い知識を修得し、それらに立脚したオリジナルな問いを自ら見つけだし、必要な資料・データをねばり強く収集・整理したうえで、独自の論理を築きあげる力。勉学を続けていく場合でも、社会に出て活躍する場合でも必ず求められるこうした総合的な力を広く養成することが、本学科の目標です。

入学前には、さまざまな教科や科目について幅広く学ぶと同時に、自分の関心を持ったテーマについて自主的に読書や調査を行うことを通じ、知的探求の面白さを経験してきていただきたいと思います。いわゆる「指示待ち」型ではなく、物事を多面的に考えられる柔軟な思考力を持ち、独創的な解に到達しようとする意欲のある方の入学を希望します。とくに留学生には、異なる文化圏で生活・勉学することから掴むもの、そして他の日本人学友へのフィードバックを期待します。

なお、人文科学科には、哲学・倫理学・美術学コース、比較歴史学コース、地理学コースの3つのコースがあり、入学後、自分がなにを学びたいのかを見極め、1年次末に各コース、グローバル文化学環の提供するいずれかの主プログラムを選択します。入学後は一般の学生と同じカリキュラムを受講していくわけですから、それについていくだけの日本語能力と基礎学力が必要となります。

実際の入学試験では、日本留学試験及び本学の学力検査(外国語)の成績、最終出身校の成績証明書、及び口述試験の結果などから総合的に可否を判定します。日本留学試験及び本学の入学試験では、日本語の能力を初めとして、高等学校卒業水準の全般的な基礎学力を見ます。口述試験では、これまで学んできたこと、入学後の勉学の計画と意欲、人文科学科で何を学びたいのかなどについて質問し、それらの問いに的確に回答できるかといった点を評価の対象とします。

【言語文化学科】

皆さんは生まれて以来、家庭や社会での生活の中で自分の母語を操る力を獲得してきました。また学校では、母語に加えて外国語の授業も受けてきたでしょう。そして、同時に、心揺さぶる文学作品にもいろいろと出会ってきたことでしょう。そういった経験の中で言葉や文学の美しさ、不思議さを一度も感じたことのない人はあまりいないだろうと思います。

言葉や文学の美しさへの感動、不思議さへの好奇心は、まだ漠然としたものであるかもしれません。言語文化学科での学習・研究は、それを明確なことばで形にし、さらにそれを解き明かしていく方法を皆さんに示していくはずです。いったんそのような方法に目を開かれたならば、言語も文学もこれまでよりさらに面白く、驚きに満ちたものであることに皆さんは気づくに違いありません。また、皆さんは言語のみでなく、それを支える各地域の文化や思想についても学ぶことになるでしょう。異なる文化圏から来られる皆さんにとっては、異文化間の交流ということも、興味のあるテーマではないでしょうか。そうした事柄についても、ぜひ本学科で学習してほしいと思います。

私たち言語文化学科は、言葉に愛着を持ち、以上述べてきたような学習・研究に興味を感じ、かつそのための訓練に耐えられるだけの十分な基礎学力と、旺盛な知的好奇心を持った学生を求めます。

なお、言語文化学科には、日本語・日本文学コース、中国語圏言語文化コース、英語圏言語文化コース、仏語圏言語文化コースの4つのコースがあります。入学後、自分が何を学びたいのかを見極め、1年次末に、これらのコースの提供するプログラムの中から、主プログラムを決定することになります。

選考は、語学能力と全般的基礎学力を測るために、日本留学試験の点数を参考とし、また外国語の試験、面接による口述試験が課されます。口述試験では、質疑を通して、本学での学習計画などを的確に相手に伝えられるかどうかといったコミュニケーション能力や自己表現力を判断します。さらに最終出身校での成績などを加えて総合的に可否を判定します。

【人間社会科学科】

当学科には、人間の意識や行動の社会的側面や心理的側面を考察したり、人間の発達について教育科学的、総合的に考えるなどの、様々な研究アプローチがありますが、共通しているのは、自分を含めた「人間」に対するあくなき好奇心です。人間に関わる諸問題を学問的に解明したり、そこで得られた知識を実際に役立てていきたいと考える学生の進学を期待します。本学科を受験するにあたっては、様々な教科や科目について幅広く学んできてください。特に、日本語・英語(外国語)・数学は、大学での学習と研究にとって大変重要な基礎的能力を育成するために必要です。このほか社会科学(地理、歴史、公民など)や自然科学(理科)の学習を通じて、人間について深く考える姿勢と能力を身につけた学生を歓迎します。

出願資格には、日本留学試験を受験した者であることを定めています。この日本留学試験によって、日本語能力と、幅広い基礎的な知識・教養を身につけているかどうかを判断します。また入学試験では、大学での研究に必要な不可欠な基礎的能力と日本語能力を身につけた志願者を得るために、外国語の学力検査と口述試験を行います。

【芸術・表現行動学科】

本学科は、人間の芸術及び表現行動としてのパフォーマンスとその学問的研究との両方を、同時に追求しようとする貪欲な人を求めています。本学は小規模ながらも総合大学ですから、その特性を十分に利用して、「自ら」多様な可能性を切り開こうという積極的姿勢が要求されます。

なお、本学科では、学びの専門性を活かすために、複数プログラム選択履修制をとっておりません。受験の際に選択したコースに2年次から所属することになります。

実際の入学試験では、日本留学試験及び本学の学力検査（外国語）の成績、最終出身校の成績証明書、及び実技検査の結果などから総合的に可否を判定します。

【舞踊教育学コース】：

本コースは、舞踊を中心にスポーツから日常動作にいたる人間の身体活動や表現について、理論と実践の両面から積極的に研究を進めることのできる、両者のバランスの取れた、エネルギッシュな人材を求めています。

【音楽表現コース】：

音楽は人間の感性に関わるとともに、高度に知的社会的な活動であり、人間の営みに深く根づいています。勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています。

※ グローバル文化学環

2005 年度に創設されたコースです。グローバル化する現代社会の課題を、①地域研究・地域文化、②多文化交流・多文化共生、③国際協力・国際関係、という3つの領域を組み合わせることで、動的に捉え、実践的に学んでいこうというのが、グローバル文化学環のコンセプトです。

その特徴は、文教育学部の3つの学科（人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科）のいずれの学生も、主プログラムとして選択できることです。また、所属学科のいずれかの副プログラムを履修することで、学際的な学修をおこなうことができます。

この学環での学修を希望する人は、自分の関心や得意分野にそって、受験する学科を選んでください。カリキュラムなど、さらに詳しい情報を知りたい人は、文教育学部のホームページにアクセスしてみてください。

◆ 理学部

【数学科】

数学は、あらゆる現象の背後にある数や図形の永久に変わらない真理を追究する学問です。それを学ぶことで、魂を揺さぶる美しいものや実生活で役に立つものに出会い、また世界を見通すための厳格な論証法を身につけられると考えます。

このような観点から、数学科では主に以下のような目標を持った人を求めます。

- ・教師や研究者のように数学を職業としたい人
- ・数理的な素養を生かして社会を支える仕事につきたい人
- ・とにかく数学に対して意欲を持って勉強したい人

受験者に求めるのは以下のことです。

- ・高校での数学を十分に理解し、大学での講義に必要な数学の知識を身につけている。
- ・文章から数学的な意味を読み取ることができる。
- ・自分の考えを数学的、論理的な文章に表現して相手に伝えられる。

【物理学科】

自ら考えて問題を見つけ出し、自ら考えてこれを解決する学生を希望します。（もちろん、必要になれば教員の適切な助言及び指導を受けることができます。）また、豊かな人間性ととともに、他人との協調性に優れた人格が望まれ、忍耐力も必要です。卒業後には物理学の勉学を通して培った、「物事の法則を発見しそれを応用する能力」を各方面で発揮し、社会において指導的役割を果たす女性となることを期待しています。しかしながら究極的には、「物理学を学んで生き生きと充実した人生を送ること」が最も大切と考えています。

【化学科】

化学は、原子・分子をなかだちとして自然科学のあらゆる分野と密接に関係しており、その領域は数学・物理学の理解が不可欠な分野から、さらに生物学や地球科学の知識の必須な分野まで広がっています。したがって、化学科の志願者は、高校では化学のほかこれら基礎となる科目、特に、物理・生物を幅広く履修して、理論的思考力や自然科学の基礎知識をしっかりと体得しておくことが望まれます。また、英語で書かれた文献を読みこなす語学力も要求されますので、高等学校での英語の十分な学習が必要です。入学後には、専門の学習や研究の基盤となる実験能力を養うため、学生実験を重視しています。

これらを踏まえて、入学試験においては、総合的理解力をその評価基準とします。

【生物学科】

生物学では、微生物からヒトまで、多種・多様な“生き物”の複雑で多様な生命現象を研究します。そのためには、いろいろな視点から考える柔軟な思考力とそれを支える幅広い基礎知識が必要です。したがって、高校生時代を通して、理系、文系を問わず、教科科目を幅広く学び、論理的思考や知的好奇心をはぐくんでいることを希望します。また、“生き物”の複雑で多様な生命現象を観察し、“生き物”と忍耐強く対話し、自ら考え、自ら問題を見つけ、試行錯誤しながらこれを解決する意欲とパワーをもつ学生を希望します。“生き物”に関する理解と関心を深め、より豊かな知の財産を築ける人に育つことを期待しています。

【情報科学科】

情報科学はコンピュータの出現によってその存在と価値が確かめられた「情報」とよばれる概念を、エネルギーや物質と並ぶ世界の主要な構成要素として認識し、その生成、管理、利用に関する原理を探究する新しい学問分野です。今日、その応用は自然科学や工学のみならず、社会科学や人文科学にも及んでいます。

この奥深さを理解し、これまでの成果を学びたい人、さらに今後の進展に積極的に貢献したい人にぜひ進学してきてほしいと思います。情報科学は、これまでの数理学や自然科学の考え方を偉大な先達として独自の方法論を展開しようとしていることから、広くかつ深い理系のセンスが問われます。情報科学を通じて 21 世紀の科学技術を支えるのは自分たち女性だと心底思っている人、あるいは思いたい人、あるいはそういわれて「そうなんだ」と今気づいた人を大歓迎します。

◆ 生活科学部

【食物栄養学科】

食物栄養学科は、豊かな食生活や健康な社会の実現に向けて、食物と栄養や健康に関する科学的視点と実践力を身につけた社会のリーダーとなる専門家の育成をめざしています。そのために食物と栄養に関する様々な学問分野において、分子、遺伝子、細胞レベルから人間栄養学的なものまで幅広く教育研究を行っています。本学科の教育の特徴は、長時間にわたる多数の実験や臨地実習を含む実習が必修となっていることです。実験・実習科目は 1、2 年より開講され、特に 3 年生の午後は毎日実験・実習が当てられています。所定単位を取り、本学科を卒業すると、栄養士免許が取得できると同時に、管理栄養士の国家試験受験資格と食品衛生監視員の任用資格が得られます。また、栄養教諭（一種）免許を取得することも可能です。

本学科の教育研究は実験科学を基盤とした上で生活や社会との接点を重視するため、本学科に進学する学生には、忍耐強く実験・実習に取り組めること、自ら考え行動できること、他人とコミュニケーションをとりながら物事を進められることを望みます。高等学校では、理数系の基礎をしっかりと履修すること並びに生活に即した学習を重視することを望みます。

選考では、試験の成績と口述試験の結果及び日本語能力を総合して判定します。

【人間・環境科学科】

人間は、利便性、快適性、安全性などを追求し、身の回りの環境を常に変えて来ました。食糧は豊富になり、暮らしは便利になり、病気が減り寿命も延びました。しかしその反面、環境のあまりに大きく急速な変化に対して人間が適応できず、人類の存続にも影響する様々な問題も生じてきています。これに対して本学科では、「人間にとっての環境、環境にとっての人間」という視点に立ち、人間と環境の相互の働きかけを具体的に評価・設計・提案し、よりよい生活環境を創造するための研究と教育を行っています。加えて建築関連科目を中心に一定の基準に従い履修を行うことで、一級建築士の受験資格を得ることができます。

本学科の柱となる学問分野には、建築設計学、建築計画、建築環境工学、自然人類学、人体生理学、人間工学、福祉工学、環境機能材料学、環境評価学、環境工学などがあります。自然科学の好きな人、人間と環境にかかわる基礎的な科学を十分に学び、深く研究してみたい人、専門家として真に健康で豊かな生活を構築するために寄与したいと考えている人を、本学科は歓迎します。志望される方は、高等学校において理数系の基礎をしっかりと履修していることを望みます。本学の試験（数学、理科、外国語）では自然科学をはじめとする幅広い基礎学力を評価します。

【人間生活学科】

人間の生活は、生涯にわたる人間の発達、生活を営むための人間社会のあり方、民族、歴史や伝統、文化などさまざまな面が相互に関連した、複雑で総合的な営みです。高度に複雑化した現代社会においては、この複雑な人間生活の営みを総合的に理解し、人間が生涯を通して生き生きと生活できるための条件や社会の仕組み、文化のあり方を明らかにし、それを実現する人材が求められています。

人間生活学科では、こうした豊かな人間生活の実現を担う人材の育成を、相互に関連する3つのアプローチによってめざしています。①人間の生涯発達にかかわる発達心理学・臨床心理学・保育学的理解と実践の連携、家庭や保育あるいは心理臨床などの現場に役立つ理解—発達臨床心理学、②地域社会から国際社会まで、多元的な社会環境を視野に入れ、家族、消費者、女性、高齢者、子ども、制度と政策の問題など、生活と社会及びその関係についての社会科学的理解—生活社会科学、③人間にとって最も身近な服飾と住居、工芸、デザインを中心とする生活造形を対象とし、生活文化の歴史と現在について、美学的・比較文化的・民俗学的理解—生活文化学の3つです。こうした課題に関心があり、問題意識と研究意欲を持っている人、錯綜する現代の生活状況の中で、人間性を重視した社会を築くために貢献したいと考えている人、潤いのある生活を実現しようという熱意をもっている人には、ぜひ人間生活学科で学んでほしいと思います。

選考では、試験の成績と口述試験の結果を総合して判定します。口述試験では質疑を通して、将来の勉学計画や自分の考えを明確に持ち、かつそれを相手に的確に表現できるかといったコミュニケーション能力を評価します。

入学後は一般入試で入学した学生と同様、1年次末に主プログラムを選択することになります。

2 募集人員・出願要件【私費外国人留学生特別入試】

実施学部・学科	文教育学部：人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科 理学部：数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科 生活科学部：食物栄養学科、人間・環境科学科、人間生活学科
募集人員	各学科とも若干名
出願資格	次の(1)及び(2)の両方に該当する日本国籍を有しない女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者 (1)次の①、②、③、④のいずれかに該当する者 ① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成29年(2017年)3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成29年(2017年)3月31日までに満18歳に達する者 ③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成29年(2017年)3月31日までに満18歳に達する者 ④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成29年(2017年)3月31日までに満18歳に達する者 (2)独立行政法人日本学生支援機構主催の「日本留学試験」を受験した者 (受験を要する科目については、下表を参照) さらに、理学部物理学科を志願する者については、「TOEFL試験」の受験が必要である。 なお、日本において高等学校を卒業又は同等以上の資格を得た者は、一般入試志願者用の募集要項により出願すること。
選考方法	志願者(理学部物理学科希望者を除く)に「本学の入学試験」を課し、その結果と「日本留学試験成績」及び最終出身校の成績証明書等の提出書類の内容を総合して合格者を判定する。 なお、理学部物理学科を志願する者は、「日本留学試験」、「TOEFL試験」及び最終出身校の成績証明書等の提出書類の内容を総合して合格者を判定する。
出願期間	出願書類は郵送により受付を行う。 平成28年12月5日(月)～12月15日(木)【必着】 ただし12月14日(水)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理する。
試験日	平成29年2月25日(土)、26日(日)
備考	本学に入学を志望する者のうち、心身に障害あるいは疾病があり、受験上の配慮を必要とする場合は、事前相談【一般入試に準ずる(19ページ参照)】を行うので、平成28年11月11日(金)までに入試課に申し出ること。

3 「日本留学試験」で受験を要する科目等

学部	学科	受験を要する科目						成績利用		
		日本語	総合科目	数学	理 科				科目選択	出題言語
					物理	化学	生物			
文教育学部	全 学 科	○	○	1又は2				日本語	6月/11月	
理学部	数 学 科	○		コース2				2科目自由選択	日本語	6月/11月
	物 理 学 科	○		コース2	○			他1科目自由選択	日本語	6月/11月
	化 学 科	○		コース2		○		他1科目自由選択	日本語	6月/11月
	生 物 学 科	○		コース2			○	他1科目自由選択	日本語	6月/11月
	情 報 学 科	○		コース2				2科目自由選択	日本語	6月/11月
生活科学部	食 物 栄 養 学 科	○		コース2				2科目自由選択	日本語	6月/11月
	人 間 ・ 環 境 学 科	○		コース2				2科目自由選択	日本語	6月/11月
	人 間 生 活 学 科	○	○	1又は2					日本語	6月/11月

[注]

1. 「平成28年度日本留学試験」の6月または11月の成績を利用します。
2. 数学について、文教育学部及び生活科学部(人間生活学科)では、コース1又はコース2のいずれかを受験してください。

4 本学の入学試験〔私費外国人留学生特別入試〕

(1) 検査日

詳細については、本学私費外国人留学生（学部留学生）特別入試学生募集要項に明示する。

(2) 学力検査教科・科目

志望する学部学科		出題教科等	出題科目(出題範囲)
文教育学部	人 文 学 科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
	言 語 文 化 学 科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
	人 間 社 会 学 科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ ※学力検査のほか、実技検査を行う。18～19 ページを参照
理学部	数 学 科	数学 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
	物 理 学 科		個別学力検査は課さない。41 ページ (5)を参照
	化 学 科	数 学 理 科	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 化学基礎・化学と、 物理基礎・物理、生物基礎・生物から1
		外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
	生 物 学 科	数 学 理 科	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 生物基礎・生物と、 物理基礎・物理、化学基礎・化学から1
		外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
情 報 学 科	数 学 理 科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B 数学Ⅲ、物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から2 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	
生活科学部	食 物 栄 養 学 科	数 学 理 科	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1
		外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
	人 間 ・ 環 境 学 科	数 学 理 科 外国語	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1 コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ
人 間 生 活 学 科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ	

[注] 数学の出題範囲: 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B(数列、ベクトル)

(3) 実技検査(芸術・表現行動学科のみ)

実技検査については、一般入試(18～19 ページ)を参照のこと。

(4) 口述試験

各学部（理学部物理学科は除く）とも口述試験を行う。

(5) TOEFL 試験を要する学科 (Test of English as a Foreign Language)

理学部物理学科受験希望者については、本学が行う「学力検査」を課さないが、TOEFL 試験を受けなければなりません。

○試験結果の提出方法

- ・ Official Score を、試験実施機関(ETS)から直接お茶の水女子大学に送付する手続きを取ってください。
- ・ お茶の水女子大学の登録コード番号は 7224 です。学部別のコード番号はありません。TOEFL 受験時に、このコード番号により手続きを行えば、試験後に直接お茶の水女子大学へ試験結果が送付されます。Writing Section(essay)においてタイプ入力した場合は約 2 週間後に、手書きの場合は約 5 週間後に ETS から発送されます。
- ・ TOEFL 受験時にお茶の水女子大学への送付手続きを行わなかった場合には、後日 ETS の定めにしたがって Official Score の送付手続きを取ってください。

○有効期間

平成 28 年(2016 年) 4 月 1 日以降平成 28 年(2016 年) 11 月 30 日までにお茶の水女子大学に到着したものを有効とします。

5 平成 30 年度私費外国人留学生(学部留学生)特別入試(平成 30 年4月入学)に関する変更の予告

特に変更の予定はなし。

Ⅷ. お茶の水女子大学入学資格個別審査について

平成 29 年度一般入試（前期日程・後期日程）に係る本学入学資格審査を次のとおり行います。

（※ 9 ページ 一般入試「2. 出願資格」中の(4)に該当する場合のみ該当。）

1 審査内容、審査方法(審査のめやす)

平成 29 年 3 月末までに 18 歳に達する(達している)女子で、次の項目(審査のめやす)のいずれかに該当する者について、申請書類の書面審査を行います。

また、本学では志望学部・学科にかかわらず、大学全体で審査を行います。

(1) 3 年以上の教育施設での学習(見込みの者を含む)又は、社会での実務経験等を有する者。

① 3 年以上の教育施設での学習は、組織的な教育により、相当の授業時間の教育が行われるものであること。

② 実務経験等については、本学の教育目的、教育課程に照らし、ふさわしいものであること。

(2) 大学の科目等履修生として在籍中の者又は、在籍していた者。

(3) その他、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

2 申請期間(前期日程,後期日程とも)

(1) 7 月審査－平成 28 年 7 月 12 日(火)～ 7 月 15 日(金)必着

(2) 1 月審査－平成 29 年 1 月 17 日(火)～ 1 月 19 日(木)必着

必ずこの期間内に本学に到着するように郵送してください。

3 審査に必要な書類(申請書類)

(1) 入学資格審査申請書(本学所定様式)

学習歴、社会での実務経験等を記入してください。科目等履修生は当該欄も記入してください。

(2) 学習歴の証明書、又は、社会での実務経験等がわかるもの等

・学習歴の証明書は学校側で作成した卒業(見込)証明書等とします。

・大学の科目等履修生は、単位修得(見込)証明書を提出してください。

(3) 上記 1(1)①に該当する教育施設に通学している者は、その学校の学校案内、学則、カリキュラムがわかるもの等卒業に必要な総授業時間数、卒業に必要な普通科目の総授業時間数等がわかるものを必ず提出してください。

(4) 入学資格審査申請理由書(本学所定様式)

※上記 1(1)①及び 1(2)に該当する申請者は提出する必要はありません。

※記入に当たっては、必ず次の内容を記入してください。

・中学校を卒業後、本学の資格審査申請までの間にどのようなことをしてきたか。

・どのような理由をもって、高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められると考えているか。

・本学でどのようなことを学びたいか。

(5) 返信用封筒(審査結果を通知するため)

住所、氏名、郵便番号を明記し、792 円分(定形郵便 82 円＋速達 280 円＋書留料金 430 円)の切手を貼付した「長形 3 号」の封筒。

4 申請手続方法

(1) 入学資格審査申請書及び申請理由書(本学所定様式)は次のいずれかの方法により、事前に入手してください。

①封筒の表に「入学資格審査申請書等請求」と朱書きして、住所、氏名、郵便番号を明記し、362 円分(定形郵便 82 円＋速達 280 円)の切手を貼付した返信用封筒(大きさ：長形 3 号)を同封の上、本学入試課に請求する。

②本学入試課ホームページに掲載している本学所定様式をプリントアウトする。

入試課ホームページ URL <http://www.ao.ocha.ac.jp/>

(2) 申請書類を一括して、本学入試課宛に**書留速達**で郵送してください(下記 6 を参照)。

また、封筒の表には「入学資格審査申請書在中」と朱書きしてください。

5 審査結果の通知方法

(1) 7 月審査－8 月上旬までに文書で通知する。

(2) 1 月審査－審査終了後、ただちに文書で通知する。

なお、入学資格が認められた場合は、出願時に本学学生募集要項に記載されている出願書類のほか、この通知(認定書)のコピーも提出してください。

6 申請書の請求、申請書類の提出及び問合せ先

〒112-8610 東京都文京区大塚 2 丁目 1 番 1 号

お茶の水女子大学 入試課 電話 03-5978-5151・5152

X. 学生募集要項(願書)・大学案内の請求

募集要項種別	配布予定時期
一般入試(前期日程・後期日程)	10月下旬
AO入試	7月下旬
推薦入試、帰国子女・外国学校出身者特別入試	9月上旬
私費外国人(学部)留学生特別入試	9月上旬

1 大学のホームページから請求する場合


大学のホームページからテレメールを利用して大学案内や学生募集要項(願書)の資料が請求できます。
詳しくは、入試課ホームページをご覧ください。(http://www.ao.ocha.ac.jp/)

2 インターネット(パソコン,スマートフォン,携帯電話)または自動音声応答電話で請求する場合

①下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスしてください。



テレメール

インターネット (パソコン・スマートフォン・携帯電話)の場合 http://telemail.jp (パソコン・スマートフォン・携帯電話各社共通) バーコード (バーコードからアクセスした場合は資料請求番号の入力は不要) 	自動音声応答電話の場合 IP電話 050-8601-0101 (24時間受付) ※IP電話: 一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。
---	---

②お茶の水女子大学資料請求番号(6桁)をプッシュまたは入力してください。

資料名	資料請求番号
大学案内	562372
一般入試(前期日程,後期日程)募集要項願書付	582352
大学案内+一般入試(前期日程・後期日程)募集要項(願書付)	542352
AO入試募集要項(願書付)	582382
大学案内+AO入試募集要項(願書付)	542382
推薦入試、帰国子女、外国学校出身者特別入試募集要項(願書)	582362
大学案内+推薦入試、帰国子女・外国学校出身者特別入試募集要項(願書)	542362
私費外国人留学生(学部留学生)特別入試募集要項(願書)	562382
大学案内+私費外国人留学生(学部留学生)特別入試募集要項(願書)	562392

③あとはガイダンスに従って登録してください。

- * 受付から2、3日程で送付されます。ただし、受付時間や地域、配達事情によっては4日以上かかる場合もあります。なお、発送開始日までのご請求は予約受付となり、発送開始日になりましたら、一斉に発送されます。
- * 住所、名前の登録時には、ゆっくりはっきりとお話してください。登録された音声の不鮮明な場合は資料をお届けできないことがあります。
- * 料金は、お届けした資料に同封されている料金支払い用紙の支払い方法に従いお支払いください。
- * 募集要項(願書)の請求は、出願締め切りの約7日前までの取扱いとなりますので注意してください。

上記1.2.の請求方法についてのお問合せ先

テレメールカスタマーセンター
 IP電話 050-8601-0102
 (9:30~18:00)

入学者選抜に関する問い合わせ先

お茶の水女子大学入試課

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号

電話番号 03-5978-5151・5152

E-mail nyushi@cc.ocha.ac.jp

月曜日～金曜日（祝日は除く）9時～17時

※ 問合せはできるだけ志願者本人が行ってください